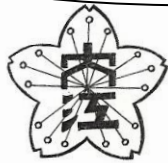


毎朝 7 時半頃開新高校のお兄ちゃんたちが、バケツをもって大江小校区のごみ拾いをしてくれています。教頭先生が「どこが一番落ちていますか？」と尋ねられると「堂免公園です」と。大江小の子どもたちがたくさん利用する堂免公園。まさかお菓子のごみをなど捨ててませんよね。みんなが気持ちよく公園を使えるようにしましょう。



# 大江の風



7月22日  
No. 7 1

どのクラスも終始笑顔で面談をしている姿を見て、安心しました。廊下で待っていただいていた次の番の方々、暑かったですね。ありがとうございました。

## 教育相談お世話になりました

本校では初めて保護者との2者面談を行いました。暑い中、学校に来てくださった保護者の皆様、ありがとうございました。15分程度という短い時間でしたが、いろいろお子さんについて話し合うことで、学校と家庭と一緒に子どもさんの成長のためにがんばっていきましょうという気持ちになっていただけたら幸いです。担任たちも保護者の方々と1人1人顔を合わせてお話しできたこと、とても喜んでおりました。どうぞこの時期だけでなく、何かありましたら気軽にいつでも担任にご相談ください。また担任以外の専科の教員、管理職にも遠慮なくご相談ください。希望が多く来週も続くクラスもあります。よろしくお祈りします。



ひまわり組が花火の絵をプレゼントしてくれました。とてもきれいです。さて問題です。何を使って描いたでしょうか？



## 5の1 学級通信から

答えはトイレトペーパーの芯です。

金栗先生が災害ボランティア体験について学級通信に書いていたので、皆さんにも紹介します。教師の生きざまは、子どもたちへの影響大です。熊本地震の時は、職員と地域の皆さんと共に避難所運営を行い、いろんなところから多くの支援をいただきました。今度は、自分ができることを考え行動に移す時。でも体を張ってボランティアはできない私は、被災地のいち早く復興を願い、できることからやっていきたいと思えます。

## 人吉・芦北に行ってきました

先週末の土日に、人吉・芦北に災害ボランティアに行ってきました。直前の木曜日に“人吉でボランティアを募っている。熊本県在住の方（コロナ感染防止の観点から）に限る”というニュースを知り、急に思い立ったところでした。恥ずかしながらこのようなボランティア活動に参加するのは初めてのことも知らないところからのスタートでした。調べてみると事前に“ボランティア保険”に加入している必要があることや、活動着の準備、食事や移動の責任、救援物資を運ぶ方々の邪魔にならない時間帯での移動、被災された方々への配慮など、学ぶことがいっぱいでした。

いざ土曜日人吉のボランティアセンターに向かうと、『今日はまだまだ雨がひどく、今後の活動が危険なので中止しました。』とのこと。そうなることも覚悟はしていましたが、せっかく来て何もしないままとぼ返りも何なので…と思い、青井阿蘇神社付近に向かいました。そこで出会ったおばあちゃんに『ボランティアできればと思ってきましたが、何かお手伝いできることはありませんか？』と尋ねたところ、『ちょうどその家で今から活動するところです。』とのことだったので、車を止め向かいました。歩いていくと、その被害の大きさに驚きました。建物は崩れ、道路はヘドロで埋まり、平屋の天井まで泥水が浸かったあとがありました。路地の横には、廃棄となった家財道具がどの家からも山のように積んでありました。ここでは、ヘドロかきと荷物の運び出しを主に手伝いました。昼前には『近くで冠水が始まっているから早く帰ったほうがいい！』ということで、仕事半ば帰ることになりました。

次の日の日曜は、芦北の佐敷小がボランティアを募っているということで向かいました。この日は直前に高速が通行止めになるというハプニングがありましたが、無事時間に間に合い作業開始です。この日は、県のPTAや地域の方々が総勢200人ほど集まっていました。ここでも学校の一階部分まで冠水していたようです。やはりヘドロが一面に広がっていたので、それを取り除く作業がメインになりました。

現地の教職員と話をするのができましたが、学校再開を考えているものの電気が通っていなかったり、子どもの学習物資がなかったり、家族を亡くした子のメンタルケアをどうするかなどと多くの課題がまだまだあるようでした。

ここでは午前中の作業でしたので、午後からは昨日の人吉の方々が気になり向かうことにしました。しかし向かう途中あちこちで通行止めがあり、ナビに従うも結局、鹿児島県まで迂回しての長旅となってしまいました。それでも目的地にたどり着くと、おばあちゃんたちはとても喜んでくださり、お家も何とか内部まできれいにすることができました。

人吉では、ライフラインの回復はできていますが、被災範囲の広さや、熊本県在住限定のボランティア募集などで、どうしてもマンパワーが足りない！と苦しい状況を話してくださいました。

今回思い切って行動してみて、少しでも人の助けになることができて、本当に良かったと思いました。実はこれも大江のおかげです。大江に来て二年。子ども達や地域の方々のご協力姿勢を間近で見てきたことが自分の力になったように思います。そして、5年1組の日ごろのボランティア精神を見てきたからこそ、今回につながったと思っています。

直接的にでも間接的にでも、今回被災された方がいらっしやると思えます。また、いろんな形でボランティアをされた方々もいらっしやると思えます。コロナ感染も不安な日々ですが、何とか乗り越え、みんなで助け合っているような世の中を目指し、まずは目の前の5年1組のチームで成長していきたいと思えます。